

体内時計のずれ 血液で測定 睡眠障害の診断 簡単に 北大など開発

体内時計のずれ 血液で測定

ヒトの血液中で24時間周期で増減する物質を特定して「分子時刻表」を作り、時差ほけなどで生じる体内時計のずれを血液を採取してこの時刻表と照合するだけで推定する方法が開発された。理化学研究所と慶応大、国立精神・神経医療研究センター、北大の研究チームが27日までに論文にま

睡眠障害の診断 簡単に

北大など開発

とめた。米科学アカデミー紀要電子版に発表する。時差ほけや睡眠障害を簡単に診断できるほか、特定の病気が発症しやすい体内時刻に薬を飲むなどの「時間治療」の実現が期待される。せんそくが期待される。せんそくの発作は未明に起きやすく、アレルギー性鼻炎や関節リウマチは朝に症状

が最悪になる傾向が知られる。体内時刻を調べるに2009年にマウスで体内時計測定法を開発していた。今回は、被験者3人に1日半、光量や室温が一定の室内に座ってもらい、チゾールの量、深部体温を長期間調べる必要があった。理研発生・再生科学総合研究所の上田泰己リーダーらは、食事や昼夜の光環境の影響を受けます。分子時刻表の作成に役立つ24時間周期の増減を示す物質が58種類見つかった。

は、これまでは血中ホルモンのメラトニンやコルチゾールの量、深部体温を長期間調べる必要があった。理研発生・再生科学総合研究所の上田泰己リーダーらは、食事や昼夜の光環境の影響を受けます。分子時刻表の作成に役立つ24時間周期の増減を示す物質が58種類見つかった。